杉山留美子展—光満ちるとき

SUGIYAMA Rumiko Exhibition　The Light Shining on Canvas

1942年、札幌に生まれた杉山留美子は、北海道の前衛的な美術運動に早くからたずさわり、その後、長きにわたり現代表現を展開する北海道の代表的な作家として活躍していましたが、2013年、病のために亡くなりました。その間、1973年には北海道芸術新賞、75年に時計台文化館美術大賞展・大賞候補賞、86年に北海道国際文化交流賞、そして2008年には札幌芸術賞を受賞しています。

その作品は、作家自ら私的曼荼羅と呼ぶ宇宙の生々流転をモチーフとした幾何学的な抽象表現から、時代とともに、色彩、すなわち光の表現の追求へと向かいます。多彩なスペクトルを内包したような赤、青などの鮮やかな色彩は次第に純度を増し、最終的にはまばゆい朝の光を感じさせるような、ほぼ白一色の静謐な空間に到達しました。

小川原脩とは、1983年の夏、約2週間にわたりラダックへの旅行を共にしています。当地で触れたチベット文化、自然界の全ての物に命の尊さを見る仏教的な世界観、そして曼荼羅に描き出される深遠な宇宙の摂理など、二人の制作活動の根底には、相通じるものが流れているように感じられます。

「無題」（未完）
2013年、当館で開催予定であった個展のために制作していた作品の一点

作家略歴

杉山留美子

SUGIYAMA Rumiko

1942	札幌市生まれ
1964	北海道学芸大学（現教育大学）特設美術科卒業
1968	北海道秀作美術展（北海道立美術館）
1978	北海道現代美術展（北海道立近代美術館、'78～'82）
1981	札幌トリエンナーレ（北海道立近代美術館、'84、'87）
1983	北海道の美術（北海道立近代美術館、'86～'88）
1985	PAN PACIFIC ART EXHIBITION（文芸振興院美術会館、ソウル）
	JAPAN KOREA IN CANADA 85展（アートサイドギャラリー、カナダ）
1987	ARTIST' S NETWORK 1987（佐賀エキジビットスペース）
	ARTIST' S NETWORK EXPANDED（福岡県立美術館）
1991	FROM ISLAND TO ISLAND日韓版画交流展（済州道文化センター、韓国）
1992	ソウル－サッポロ展（ソウル市立美術館、韓国）
1994	札幌アヴァンギャルドの潮流展（北海道立近代美術館）
	平面の断章－うつろう空間展（札幌芸術の森美術館）
1995	WOMN/Beyond Borders（アメリカ、イスラエル）
1997	北海道の抽象絵画－未知の形象を求めて（北海道立旭川美術館）
	北方の形象展（北海道立近代美術館）
1998	'98さっぽろ美術展（札幌市民ギャラリー、'99～'01）
2000	円と方形のコンポジション（北海道立近代美術館）
	主体美術北海道展（北海道立近代美術館）
	A★MUSE★LAND 2001 アート体感・ミュージアム（北海道立近代美術館）
2002	札幌の美術2002－20人の試み展（札幌市民ギャラリー）
	生命のかたち（北海道立近代美術館）
2005	北海道美術1970－1990（北海道立近代美術館）
	BELGIUM RUMIKO SUGIYAMA Here-Now…suspicious ray（ゲント、ベルギー）
2006	LINEART 2006 INTERNATIONAL ART FAIR（ゲント、ベルギー、'07）
2007	札幌大谷学園開校100周年記念展（札幌市民ギャラリー）
	HERE・NOW or MUGEKOU（ニューヨーク、アメリカ）
2009	Northern Aspects#2 杉山留美子－光満ちる時（北海道立近代美術館）
2011	これくしょん・ぎゃらりい 北海道美術に見る出会いと創造（北海道立近代美術館）
	杉山留美子展 Here・NOW あるいは難思光（茶廊法邑、札幌）
	A★MUSE★LAND☆TOMORROW 2012 おばけのマールと絵のふしぎ（北海道立三岸好太郎美術館）
	札幌美術展 Living Art －日常－（札幌芸術の森美術館）
2012	これくしょん・ぎゃらりい コレクションへの招待－北海道立近代美術館の名品100 Part 2（北海道立近代美術館）
	A★MUSE★LAND☆TOMORROW 2013 サークル○オブ○アート（北海道立近代美術館）
2013	これくしょん・ぎゃらりい　難波田龍起と抽象美術（北海道立近代美術館）
	6月4日永眠（享年71歳）

東洋的な世界へ（1970年代）

宇宙の生成・流転・消滅という曼荼羅的世界をモチーフとして、幾何学的な形態による東洋的抽象表現を展開する。

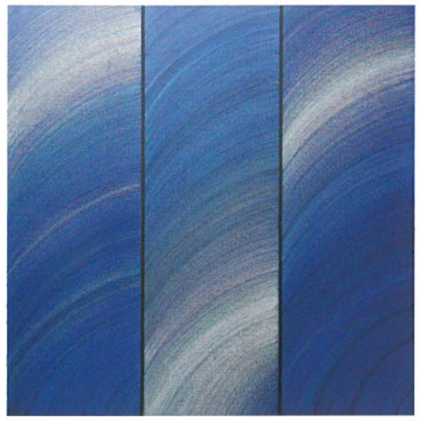
常　1975年

円蓋　1975年頃

作品79-6　1979年

光を求めて（1980年代）

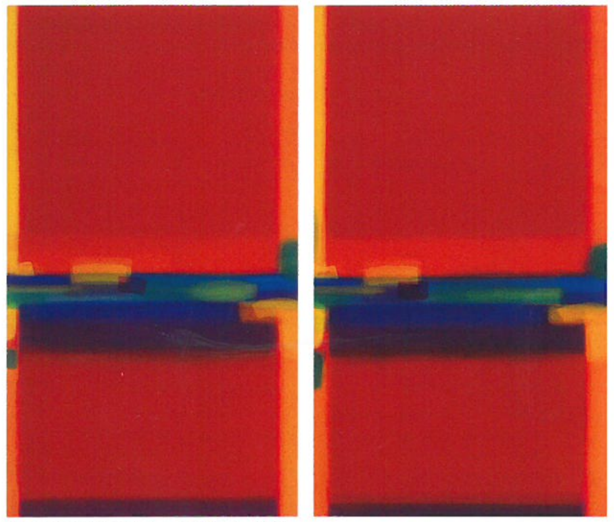
宇宙から発せられる光の波動をとらえるかのように、時には大胆に、時には繊細にストロークによる描写で画面が埋め尽くされる。



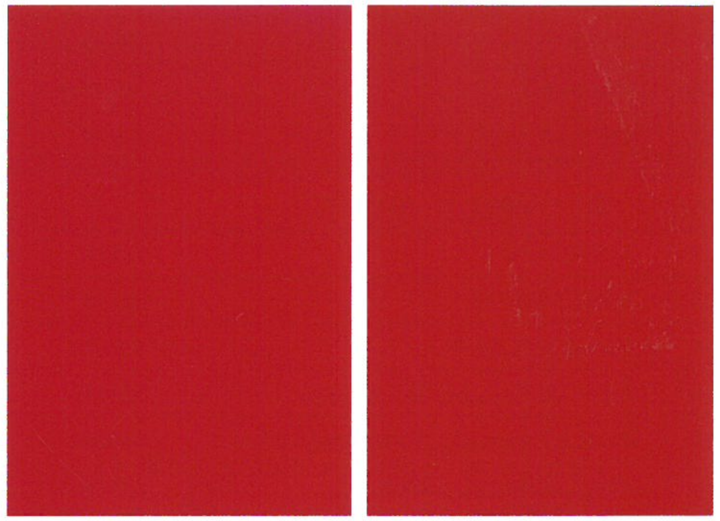
STROKE　1984年頃

静かな光に満ちて（1990年代～2000年代）

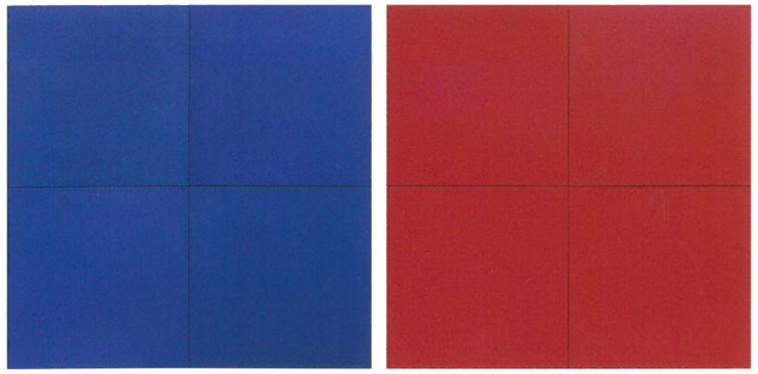
色面分析的な構成に移り、赤を基調とした画面から、青を主とした色面が広がる画面へと展開。画面全体を純粋な色彩で覆う絵画へ到達。



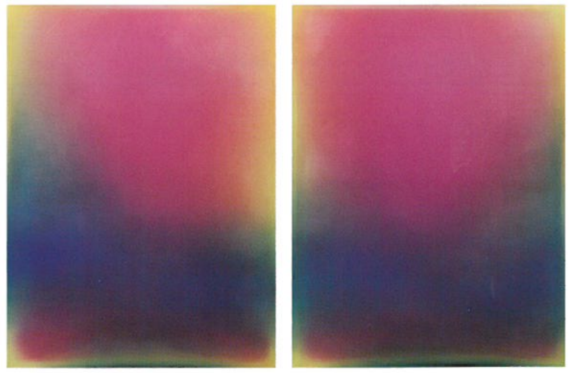
WORK9408-11より　1994年　（※）



WORK 9704-9705　1997年



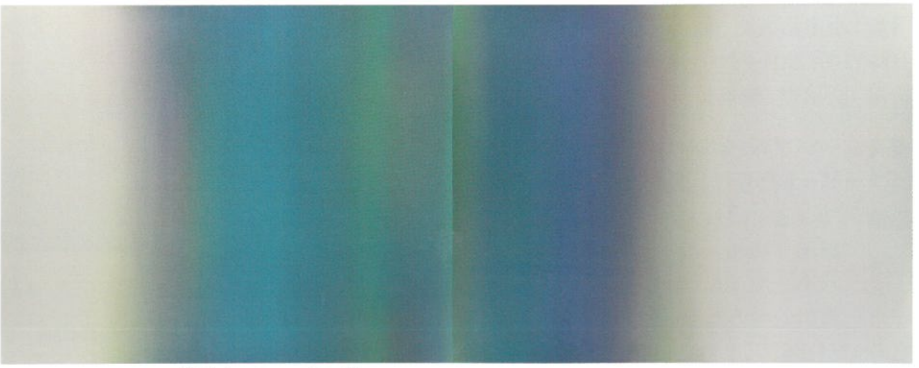
From All Thoughts Evrywhere －A－　－B－　2000年



HERE-NOW　あるいは無碍光　－B－　－C－　2000年

光の彼方へ（2010年代）

絵画のもつ空間そのものをテーマとして、鮮やかな色彩は姿を消し、静謐な光をはらんだような穏やかな色面による空間。



HERE-NOW あるいは難思光 －D－　2011年